

米語と日本語の歌詞における恋愛描写についての研究

言語文化比較ゼミナール 1214159 松本 諒

1. 研究動機・研究目的

我々にとって音楽というのはなくてはならない存在になりつつある。たとえば、スポーツをするときに聞いて気持ちを盛り上げたり、気持ちを落ち着かせたり、さらには娯楽の一つとして広く根付いている。近代のスマートフォンのような電子機器の普及により、持ち運びをしながら音楽を聴いたりすることができるようになった。最近では昔に比べて音楽が身近なものになりつつある。ひと昔前では音楽を聴こうと思うと、CDを購入しパソコンにダウンロードさせて音楽を聴いたり、CDプレイヤーでそのまま聴いたりするというのが一般的であった。しかし、最近ではスマートフォンのアプリなどからダウンロードしたり、動画配信サイトなどを無料で視聴することで、日本の音楽だけではなく海外の様々な有名アーティストやあまり知られていないアーティストまで幅広い音楽と触れ合うことができるようになってきている。そのため、米国の恋愛ソングは日本国内でも多くのヒットを出しており、様々な場面で耳にすることが多くなっている。多くの歌の中でも様々なジャンルに分かれており、ロックやジャズ、J-POPなどがあり、その中の一つとして恋愛ソングがある。洋楽の恋愛ソングを聴いていて、米国人の歌詞には直接的な表現が多いという印象を持った。そこで、米国の恋愛ソングの中に使われている恋愛描写に興味を持った。一方、日本の恋愛ソングではどのような表現がされているのかに疑問に思った。米語の歌詞と日本語の歌詞の恋愛描写にはどのような特徴やどのような言語表現の違いが見られるのかを疑問に持ち、本研究のテーマにしたいと考えた。本研究では、米語と日本語の歌詞における恋愛描写に着目し、恋愛描写に用いられている言語表現や言語構造を比較、分析することで両言語の歌詞における恋愛描写の特徴を明確にすることを目的とする。両言語の表現に観測される類似点及び相違点を明らかにし、どのような傾向があるかを考察することで両文化の言語表現について理解を深めることを目指したい。

2. 研究方法

本研究では、米国と日本の男性アーティストによって書かれた歌詞を収集し、比較及び分析することで、両言語の歌詞における恋愛描写の類似点および相違点を比較する。具体的には、2010年以降に発表された米国と日本の男性アーティストによる恋愛ソングの歌詞を収集し、どのような表現が使われているのかを分析する。その結果から米国と日本の男性アーティストに歌われている歌詞の類似点および相違点について考察する。米語と日本語のラブソングを比較するため、米国と日本の男性アーティストから、日本はCD売上数の多いものやiTunesダウンロードランキングから上位にランクインした男性アーティストのラブソングを選択し、米国はBillboardランキングの上位にランクインした男性アーティストのラブソングから、各11曲ずつ選択した。

3. 主な結果と考察

- 直接表現の中で相手の外見を褒める表現が使用されている。
- 直接表現においては、愛、悲しみ、切なさ及びポジティブ、ネガティブの割合がほぼ同じである。
- 表現技法においては、比喩表現が両言語に観察された。
- 表現技法においては、直接表現が米語が多く、間接表現は日本語が多い。

- 米語の歌詞に比べて日本語の歌詞は相手に感情を伝えていない。
- 直喩は日本語に多く、隠喩は米語に多く使用されている。
- 間接表現においては、米語はポジティブが多く、日本語はネガティブが多い。

4. 結論

本研究における相違点では、日米の文化的特徴が影響を与えていることが明らかとなった。日米の歌詞における表現技法について、直接表現が米語の歌詞に多く、間接表現が日本語の歌詞に多く使用されていた。米語の歌詞では日本語の歌詞と比較して、ストレートに相手に感情を伝えようとするものが多かった。米語では相手に感情を強調して伝える歌詞が多く使用されている印象があった。文化的な背景としても米語は言いたいことをはっきりと述べる表現が多く、曖昧な表現をあまり使わない傾向がある。さまざまな文化がある米国では、相手に対して自分の気持ちをはっきりと伝えることが大事になってくる。このように米国では自由や個を尊重する文化であり、文化的特徴が米語の歌詞の中で使用されている直接表現に影響を与えていると考えられる。

一方、日本語の歌詞においては、間接的な表現が多く使用されていた。相手に対しての感情を直接的に表現するのではなく、自分の心の中で思っていることや感じていること、伝えたいけれど伝えられない感情を間接的に表現したものが多く観察された。相手に対して感情を前面に出している米語と比較して、自分に対する感情を表したものが多く使用されていることが明らかになった。日本は和を尊重する文化であり、物事をはっきりと言わない、伝えないというように他人との関係を崩さないためにも曖昧な表現を使う傾向がある。つまり、相手に対する気持ちを直接的に伝えるのではなく、曖昧な表現を用いて遠回しに伝えることが多い日本の文化的特徴が日本語の歌詞に影響を与えていることが示唆された。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文を書くにあたり、金子先生には感謝したい。お忙しい中、ゼミ以外の自分の都合に合わせて、空いている時間に熱心なご指導いただき大変お世話になった。論文を進めていく中で、より良い論文にするために時に厳しく、時に優しい、的確な指導を行っていただき、こうして論文を書き終えることができた。論文を書くという経験が私の今後の人生に活かせるように、来年度の社会人としての生活を送っていきたい。